第20回学術大会　シンポジウム

「統合失調症 vs. 自閉スペクトラム症
―初期統合失調症論から見た、症候ならびに成因の共通と差異―」

中安　信夫
（原病院　顧問）

抄　録

ICD-11において「２．統合失調症またはその他の一次性精神症群」、「１．神経発達症群」と大分類を分けて区分されている統合失調症と自閉スペクトラム症に関して、症候ならびに成因の共通と差異を論じ、両者が鑑別診断においても、また病態理解においても意外と近縁であることを示す。各々の典型（統合失調症の極期ならびに旧の自閉症）を見る限りにおいては両者は隔絶したものと言わざるを得ないが、その比較において演者がここで対比するのは統合失調症に関してはその初期である初期統合失調症（中安）であり、自閉スペクトラム症に関してはその軽症型で言語陳述が可能な旧のアスペルガー症候群であって、その切り口ないしアプローチの仕方は初期統合失調症の症候論に依ったものである。

結論を述べるならば、症候論に関しては初期統合失調症もアスペルガー症候群も体験症状はほぼ同一と思われるものの、唯一異なるのは前者においてはその症候の中に「他者」が出現する緊迫困惑気分ないし対他緊張とその関連症状の３種（緊迫困惑気分ないし対他緊張、漠とした被注察感ないし者意識性、面前他者に関する注察・被害念慮）が頻度高く認められることに対し、後者にはそれらがまったく欠けていることである。また成因論に関しては前者は状況意味認知の後天性・一過性・可逆的失調（状況意味失認）であるのに対し、後者は状況意味認知の先天性・永続的・不可逆的未発達であるということである。

2020.2.16 日本外来臨床精神医学会シンポジウム「精神、行動、神経発達の統合的理解」
（立正大学　品川キャンパス　9号館 B21教室）

統合失調症 vs. 自閉スペクトラム症

―初期統合失調症論から見た、症候ならびに成因の共通と差異―

医療法人原会　原病院
中安 信夫

発表目次

Ⅰ．初期統合失調症 vs. アスペルガー症候群における症候の共通と差異
１）36種の初期統合失調症症状と８種の〈診断に有用な高頻度初期統合失調症症状〉
２）アスペルガー症候群には「初期統合失調症症状」が認められるのではないかと考えた契機
３）自叙伝８症例の検討
４）自験例７症例の検討
５）緊迫困惑気分ないし対他緊張とその関連症状（３種）の欠如
６）この症例は初期統合失調症（物心症例）か、それともアスペルガー症候群か？

Ⅱ．初期統合失調症 vs. アスペルガー症候群における成因の共通と差異
１）概説：統合失調症の状況意味失認−内因反応仮説
２）緊迫困惑気分ないし対他緊張とその関連症状（３種）の形成過程における〈「自己保存の危機」の意識下・無自覚的認知〉の存在
３）統合失調症の状況意味失認−内因反応仮説との対比から見たアスペルガー症候群の病態心理仮説（「自己保存本能の欠如」仮説）
４）「自己保存本能の欠如」仮説に基づく自閉スペクトラム症の中核症状の形成機序

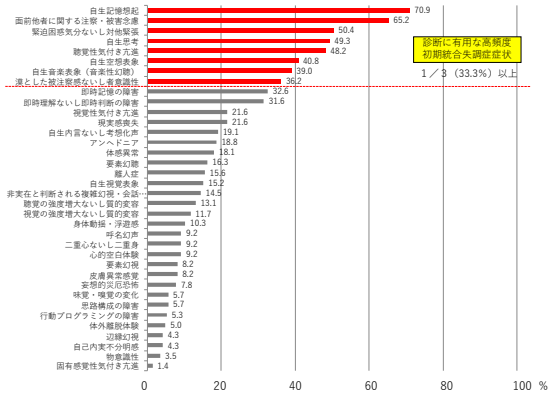
Ⅰ．初期統合失調症 vs. アスペルガー症候群における症候の共通と差異

１）36種の初期統合失調症症状と８種の〈診断に有用な高頻度初期統合失調症症状〉（2017）

No. 1 自生思考
No. 2 自生視覚表象
No. 3 自生記憶想起
No. 4 自生内言ないし考想化声
No. 5 自生空想表象
No. 6 聴覚性気付き亢進
No. 7 視覚性気付き亢進
No. 8 固有感覚性気付き亢進
No. 9 漠とした被注察感ないし者意識性
No. 10 緊迫困惑気分ないし対他緊張
No. 11 聴覚の強度増大ないし質的変容
No. 12 要素幻聴
No. 13 呼名幻声
No. 14 自生音楽表象（音楽性幻聴）
No. 15 視覚の強度増大ないし質的変容
No. 16 要素幻視
No. 17 非実在と判断される複雑幻視ないし会話幻聴
No. 18 味覚・嗅覚の変化
No. 19 皮膚異常感覚
No. 20 身体動揺・浮遊感
No. 21 体感異常
No. 22 二重心ないし二重身
No. 23 体外離脱体験
No. 24 離人症
No. 25 現実感喪失
No. 26 即時理解ないし即時判断の障害
No. 27 即時記憶の障害
No. 28 心的空白体験
No. 29 アンヘドニア
No. 30 面前他者に関する注察・被害念慮
No. 31 辺縁幻視
No. 32 物意識性（物品に関する実体的意識性）
No. 33 思路構成の障害
No. 34 行動プログラミングの障害
No. 35 妄想的災厄恐怖
No. 36 自己内実不分明感

赤字：初期統合失調症の特異的４主徴（10種：1990年）、青字：1996年追加、緑字：2017年追加

初期統合失調症症状（36症状）の出現頻度（N＝282）



診断に有用な高頻度初期統合失調症症状

１．自生体験
・自生思考
・自生記憶想起
・自生空想表象
・自生音楽表象（音楽性幻聴）
２．気付き亢進
・聴覚性気付き亢進
３．緊迫困惑気分ないし対他緊張とその関連症状
・緊迫困惑気分ないし対他緊張
・漠とした被注察感ないし者意識性
・面前他者に関する注察・被害念慮

２）アスペルガー症候群には「初期統合失調症症状」が認められるのではないかと考えた契機

１．アスペルガー症候群の患者を統合失調症（単純型）、統合失調症（破瓜型）、あるいは初期統合失調症と誤診した経験が立て続いたこと
２．何ゆえに誤診したのかを振り返ってみるに、アスペルガー症候群で指摘されてきた体験は初期統合失調症にも認められる症状であったこと

【アスペルガー症候群】	【初期統合失調症】
	１．自生体験
	・自生思考
・time slip 現象	・自生記憶想起
・ファンタジーへの没頭	・自生記憶想起
	・自生音楽表象（音楽性幻聴）
	２．気付き亢進
・感覚過敏	・聴覚性気付き亢進
	３．緊迫困惑気分ないし対他緊張とその関連症状
	・緊迫困惑気分ないし対他緊張
	・漠とした被注察感ないし者意識性
	・面前他者に関する注察・被害念慮

３）自叙伝８症例の検討

検討したアスペルガー症候群患者の自叙伝（原書発表年順）

１）テンプル・グランディン：我、自閉症に生まれて（ Emergence ： Labeled Autistic.1986）. 学習研究社,東京,1994.
２）ドナ・ウィリアムズ：自閉症だったわたしへ（Nobody Nowhere.1992）. 新潮社,東京,1993.
３）森口奈緒美：変光星ーある自閉症者の少女期の回想. 飛鳥新社,東京,1996.
森口奈緒美：平行線ーある自閉症者の青年期の回想. ブレーン出版,東京,2002.
４）グニラ・ガーランド：ずっと「普通」になりたかった（A Real Person.1997）. 花風社,東京,2000.
５）リアン・ホリデー・ウィリー：アスペルガー的人生（Pretending to be Normal―Living with Asperger’s Syndrome.1999）. 東京書籍,東京,2002,
６）スティーブン・ショア：壁のむこうへー自閉症の私の人生（Beyond the Wall―Personal Experiences with Autism and Asperger Syndrome.2nd.ed.2003）.学習研究社,東京,2004.
７）泉流星：地球生まれの異星人ー自閉者として、日本に生きる.花風社,東京,2003.
８）綾屋紗月：発達障害当事者研究ーゆっくりていねいにつながりたい.医学書院,東京,2008.

１． 自生記憶想起（70.9%） ４例（50.0%）

ドナ・ウィリアムズ

- 以前に他の場所で聞いたことが、急に映像として浮かんできて、それで笑ってしまうということもある。

森口奈緒美

- 昔を思い出すたびに、軽いフラッシュバック状態となるか、あるいはまた、連鎖的にどんどん出てくるなど、しばしば感情が乱れてしまう。もし、断片的に過去の世界に行ってしまうのを「タイム・スリップ」と呼ぶならば、半強式のほうは、さしずめ「タイム・ストラップ」であろうか。

グニラ・ガーランド

- ときには、ずっと前に起きたことの記憶が、目の前のことと結びついて、かんしゃくの原因になることもあった。

綾屋紗月

- このようにして「意図」とは切り離された「？」マーク付きの人びと言葉、表情、動作などだけが、大量に私の記憶のなかにストックされていく。一人になったときや寝る前にその記憶がどっと噴き出してくるので、飽和した記憶は、私の意志とは関係なく、ときおり、堰を切ったように再生される。
- 〈刺激〉段階でストックされた記憶が、鮮明なままありありと再生される段階である。・・そんな一日の途中で疲れのあまり「ふうっ」と気を抜いた瞬間や、一日を終えた夜、眠りにつこうとする際、その日にインプットされたおびただしい数の視覚記憶が、スナップショットのように次々とランダムに再生されはじめる。たとえるなら、「大量に撮りためた写真を時間軸も項目もめちゃくちゃに紙封筒に詰め込んでいたところ、紙封筒が破けて底が抜けてしまい、写真がバラバラとめどなくあふれ出て脳裏に降り注ぐ」といった感じである。
- 車窓からの風景が一枚の写真のように、パシッとふいに再現されたり、お弁当を買った売店のおばちゃんの表情やおつりを渡すときの手つき、昼食をとった店の食卓にあった調味料の配置、天井にあった電灯の形まで、時間軸はバラバラでパッパッと映像が出現しつづけたりする。
- 次々と素早く切り替えて映し出されるスライドショーのように、その日に会話した人の表情が写真記憶としてパッパッと次々に頭の中に現れるのである。これも時間軸はバラバラだ。
- 心の準備ができていない映像がランダムに現れてドキッとする怯えがすばやく絶え間なく続く苦しみ、その映像の一つひとつに「これは今日、電車を乗り換えるときにみた案内表示版」というように意味を確認していかねばならない苦しみ、をともなうものである。自分でコントロールすることができず、次から次へとスナップショットが脳裏に吐き出される感じは、気分が悪くて嘔吐が止まらない感覚や、泣きすぎて嗚咽が止まらない感覚とよく似ている。

２． 面前他者に関する注察・被害念慮（65.2%） ０例（0%）

アスペルガー症候群自叙伝８症例に認められた「初期統合失調症症状」
診断に有用な高頻度初期統合失調症症状（８種）

	「初期統合失調症症状」の症状名	グランディン	ウィリアムズ	森口	ガーランド	ウィリー	ショア	泉	綾屋	症例数
1	自生記憶想起	●	●	●		●			●	5
2	面前他者に関する注察・被害念慮									0
3	緊迫困惑気分ないし対他緊張									0
4	自生思考								●	1
5	聴覚性気付き亢進	●		●	●		●	●	●	6
6	自生空想表象	●	●	●		●		●	●	6
7	自生音楽表象（音楽性幻聴）		●	●			●			3
8	漠とした被注察感ないし者意識性									0
	高頻度初期統合失調症症状の症状数	3	3	4	1	2	2	2	4	

50%以上　　0%超、50%未満　　0%

アスペルガー症候群自叙伝８症例に認められる「初期統合失調症症状」：まとめ

１）アスペルガー症候群患者の「初期統合失調症症状」は初期統合失調症患者のそれと細部においても区別できない。
２）アスペルガー症候群患者は数多くの「初期統合失調症症状」を有している。
・診断に有用な高頻度初期統合失調症症状（８種）：
アスペルガー症候群：2.6個 vs. 初期統合失調症：4.0個
・初期統合失調症症状全体（３６種）：
アスペルガー症候群：9.3個 vs. 初期統合失調症：7.5個
３）症状内容の点において、
①アスペルガー症候群においてこれまでに指摘されてきたⅰ.time slip 現象、ⅱ.ファンタジーへの没頭、ⅲ. 感覚過敏、ⅳ. 軽微な言語的コミュニケーションの障害は、各々ⅰは自生記憶想起、ⅱは自生空想表象、ⅲは聴覚性気付き亢進、視覚性気付き亢進、聴覚の強度増大ないし質的変容、視覚の強度増大ないし質的変容、味覚・嗅覚の変化、ⅳは即時理解ないし即時判断の障害として５０%以上の症例で確認された。
②アスペルガー症候群患者は初期統合失調症患者において高頻度に認められる緊迫困惑気分ないし対他緊張、漠とした被注察感ないし者意識性、面前他者に関する注察･被害念慮の３種を欠いていた。

４）アスペルガー症候群自験例７症例に認められた「初期統合失調症症状」：まとめ

１）アスペルガー症候群患者は数多くの「初期統合失調症症状」を有している。

・診断に有用な高頻度初期統合失調症症状（８種）：

アスペルガー症候群：2.3個（自叙伝：2.6個）　vs.　初期統合失調症：4.0個

・初期統合失調症症状全体（３６種）：

アスペルガー症候群自験例：5.9個（自叙伝：9.3個）　vs.　初期統合失調症：7.5個

２）症状内容の点において、

①自生記憶想起、即時記憶の障害、即時理解ないし即時判断の障害、体感異常の４種が50%以上の発現率を示した。

②自叙伝と同じく、緊迫困惑気分ないし対他緊張、漠とした被注察感ないし者意識性、面前他者に関する注察･被害念慮の３種を欠いていた。

なお、面前他者に関する注察･被害念慮に関しては、アスペルガー症候群の患者は社会的不適応に基づく対人的恐怖感によって被害念慮を発し易く、それとの鑑別を要する。

５）緊迫困惑気分ないし対他緊張とその関連症状（３種）の欠如

【自叙伝８症例】	【自験例７症例】
１．自生体験	１．自生体験
・自生思考	・自生思考
•自生記憶想起	•自生記憶想起
・自生空想表象	・自生空想表象
・自生音楽表象（音楽性幻聴）	・自生音楽表象（音楽性幻聴）
２．気付き亢進	２．気付き亢進
・聴覚性気付き亢進	・聴覚性気付き亢進
３．緊迫困惑気分／対他緊張とその関連症状	３．緊迫困惑気分／対他緊張とその関連症状
・緊迫困惑気分／対他緊張	・緊迫困惑気分／対他緊張
・漠とした被注察感ないし者意識性	・漠とした被注察感ないし者意識性
・面前他者に関する注察・被害念慮	・面前他者に関する注察・被害念慮
４．即時的認知の障害	４．即時的認知の障害
・即時理解ないし即時判断の障害	•即時理解ないし即時判断の障害
•即時記憶の障害	•即時記憶の障害

赤字：50%以上
青字：0%

「緊迫困惑気分ないし対他緊張とその関連症状」３種の定義と「超越的他者」

（赤字部分が「超越的他者」の存在を示す）

緊迫困惑気分ないし対他緊張

緊迫困惑気分とは、何かが差し迫っているようで緊張を要するものの、何故そんな気持ちになるのかわからなくて戸惑っているというような、緊迫感の自生とそれに対する困惑からなる気分である。対他緊張とは、上記の緊迫困惑気分がいささか進展したものであり、他（他人、他物）→自の攻撃性とともに、それに対抗すべく生じた自→他の攻撃性という、双方向性の攻撃を内に含んだ著しい緊張感である。

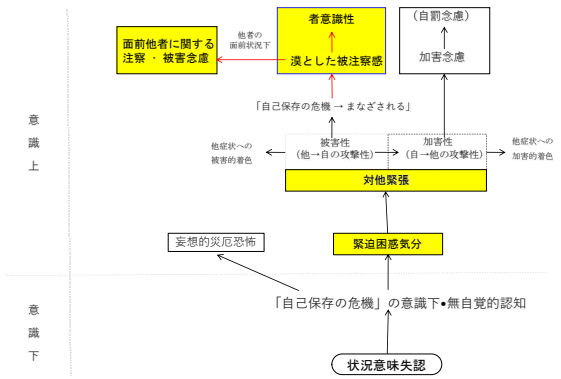
漠とした被注察感ないし者意識性

周囲に誰もいない状況で「誰（何）かに見られている」と感じられる体験である。「見られている」という感じは明瞭、確実であるが、患者は「実際に誰かが見ている」とか考えていない。見ている存在に関しては、その方向や距離も定めきれず、またそれが人間であるか否かもわからないもの（漠とした被注察感）から、その存在が実体的に明瞭に感知されるもの（者意識性）まで様々である。通常、背後から見られるという体験が多いが、それに限られるものでもない。

面前他者に関する注察･被害念慮

周囲に人のいる場所において、人から見られている、あるいは人々から自分のことが悪く言われていると感じられるものであるが、被害妄想とは異なってその確信度は半信半疑であり、またその場では強く確信されたとしても、場を離れるとそれが否定されるというように（‘今信次否’）、その場かぎりのものである。

〈緊迫感の形成〉における症状形成過程



６）この症例は初期統合失調症（物心症例）か、それともアスペルガー症候群か？

物心症例（N=49）における「緊迫困惑気分ないし対他緊張とその関連症状」３種の組み合わせ

３症状の組み合わせ数	緊迫困惑気分ないし対他緊張	漠とした被注察感ないし者意識性	面前他者に関する注察・被害念慮	組み合わせパターンごとの症例数	症状数ごとの症例数
3	○	○	○	8	8
	○	○		2	
2	○		○	9	１９（２）
		○	○	８（２）	
	○			3	
1		○		4	１５（１）
			○	８（１）	
0				7	7
個々の症状を有する症例数	２２	２３	３４		
全物心症例数				４９（３）	４９（３）

４２（４２／４９＝８５.7%）

7（7／４９＝１４.3%）

注：括弧内の数値は顕在発症例の例数

メルクマール	初期統合失調症（物心症例）	アスペルガー症候群
「緊迫困惑気分ないし対他緊張とその関連症状」3種	少なくと1種以上ありが85.7%	なし

幼少期より「初期統合失調症症状」が存在するが、

「緊迫困惑気分ないし対他緊張とその関連症状」３種のうち、少なくとも１種あれば初期統合失調症であり、３種ともなければ初期統合失調症とアスペルガー症候群の両方の可能性がある。

Ⅱ. 初期統合失調症 vs. アスペルガー症候群における成因の共通と差異

1）概説：統合失調症の状況意味失認−内因反応仮説

即物意味　vs.　状況意味

	即物意味	状況意味
定義	その対象は何であるか	その対象はその状況の中で何を意味するか
認知原理	決定性 明らかに、〇〇である	蓋然性 多分、△△であろう
	単体的認知 その対象のみで可能	統合的認知 他の対象群との相互関係のもとに可能
具体例	道路にある特定の物Xがある	
	Xは財布である	Xは誰かがうっかりして落としたのだろう

統合失調症の状況意味失認−内因反応仮説

幻声
妄想知覚／被害妄想
自我障害
緊張病症候群

【極期症状】

症状形成機序

内因反応 endogenous reaction

意識下・自動的認知機構から転送されてきた不特定・多岐・非脈絡な情報入力に対する意識上・随意的認知機構の応答

1st step

自生体験
気付き亢進
漠とした被注察感
緊迫困感気分

【初期症状】

2nd step　　3rd step

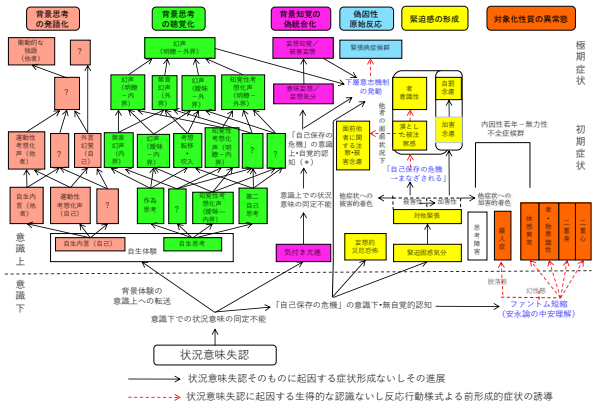
背景知覚の偽統合化
背景思考の聴覚化
背景思考の発語化
緊迫感の形成
偽因性原始反応
対象化性質の異常態

病態心理

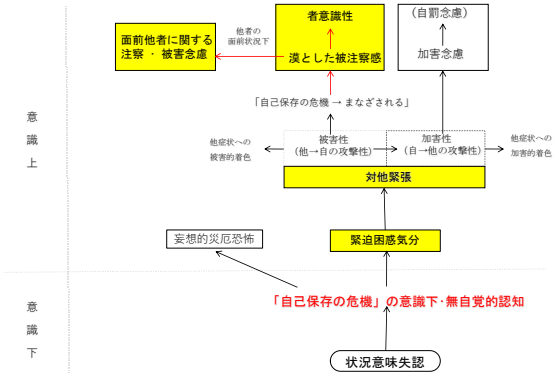
状況意味失認 situational-meaning agnosia

意識下・自動的認知機構における状況意味認知の可逆的失調

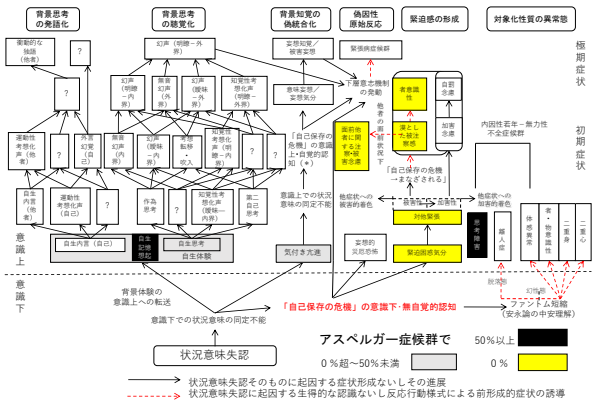
状況意味失認ー内因反応仮説に基づく統合失調症症状系統樹（2013）



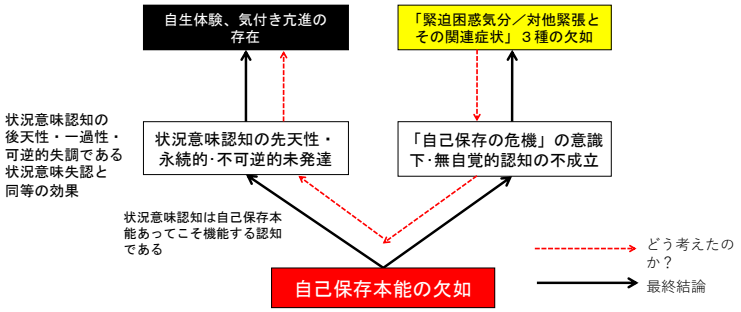
〈緊迫感の形成〉における症状形成過程



統合失調症症状系統樹（2013）におけるアスペルガー症候群の「初期統合失調症症状」



３）統合失調症の状況意味失認-内因反応仮説との対比から見た アスペルガー症候群の病態心理仮説（「自己保存本能の欠如」仮説）



４）「自己保存本能の欠如」仮説に基づく 自閉スペクトラム症の中核症状の形成機序

DSM-5における自閉スペクトラム症の診断基準（抜粋と要約）

A. 複数の状況で社会的コミュニケーションおよび対人的相互反応における持続的な欠陥
B. 行動、興味、または活動の限定された反復的な様式

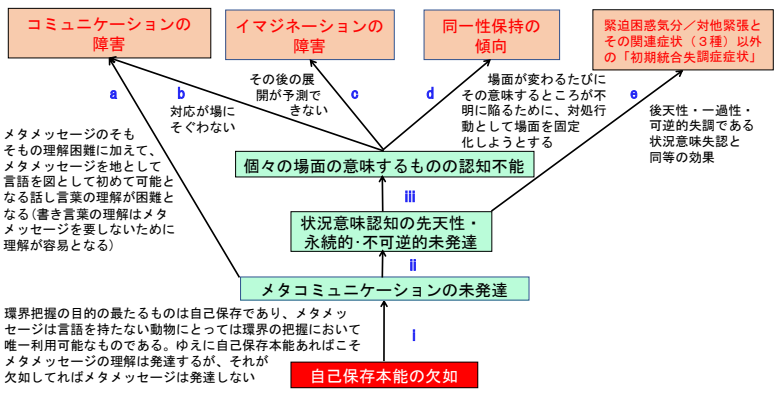
いっそう要約すれば、
①社会的コミュニケーションにおける持続的な欠陥
②対人的相互反応における持続的な欠陥
③行動、興味、または活動の限定された反復的な様式

【市橋秀夫による自閉スペクトラム症の中核症状のまとめ】

市橋秀夫監修『大人の発達障害ー生きづらさへの理解と対処』（講談社，2018）より

・コミュニケーションの障害（①）
　話し言葉の理解が困難
　メタメッセージ（言語以外のメッセージ）が受け取れない
・イマジネーションの障害（思い浮かべることの障害）（②）
　展開を予想できない
　全体の中の位置づけができない
　関わる人の気持ちがわからない
　タイムトラベルができない
・同一性保持の傾向（③）
　固執傾向（こだわり）
　変化に対する抵抗
　相手の立場に立てない

【市橋秀夫による中核症状のまとめに対する中安の小修正とその理由】

・コミュニケーションの障害
　メタメッセージ（言語以外のメッセージ）が受け取れない
　→話し言葉の理解が困難（図である話し言葉はメタメッセージを地として初めて十全な理解が得られる）
　→関わる人の気持ちがわからない（気持ちはメタメッセージにもっともよく現れる）
・イマジネーション（思い浮かべること：予測〈予め測る〉）の障害
　展開を予想できない
　→全体の中の位置づけができない（部分から全体を予測する）
　→タイムトラベルができない（現在から未来を予測する）
　→相手の立場に立てない（自分の立場から相手の立場を予測する）
・同一性保持の傾向
　変化に対する抵抗（場面は一般に、ことに対人場面においては時々刻々と変化するが、その変化が読み取れないゆえに）
　→固執傾向（こだわり）

「自己保存本能の欠如」仮説に基づく自閉スペクトラム症の症状形成機序